

《憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けていますか》

今日の福音(ルカ 6・27-38)は、人間的に理解しようとすれば、納得できない内容ではないかと思えます。

今日、ルカを通して紹介されたイエス様の言葉を一つ一つ考えてみますと、これらの言葉を実践できる人がこの世に何人いるのでしょうか。私たちは、数え切れないほど耳にした箇所なので、慣れすぎて鈍くなってしまい、単純に“そうなのか？”くらいで通り過ぎてしまう内容かもしれません。しかしよく考えてみますと、「**敵を愛しなさい。**」この言葉に自信がある人はいるのでしょうか。「**あなたがたを憎む者に親切にきなさい。**」これに対して自信がある人はいるのでしょうか。「**悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。**」このような教えに従っている人がいるのでしょうか。そして、それ以外にもたくさんイエス様の言葉が紹介されたのですが、どれも実際には実践しにくいものばかりです。しかし、このような心で生きられなければ、天国に入るのにはふさわしくないことを私たちは心に刻むべきです。

イエス様のたとえに、「天国に入るのは、らくだが針の穴を通るより難しい。」という話があります。そして、その話を聞いた弟子達は、「それでは誰が入れるのか。」と言いました。更にイエス様は、福音の中で「天国に入る門は狭い」とはっきりおっしゃっています。ところが私たちは、この言葉を甘く解釈する癖があります。神様は慈しみ深くいつも赦してくださる方だから、このくらいは大丈夫だろうと考え、自分のことを何とか正当化しようとする癖が、私を含めて全ての人間にはあります。しかし、ここで私たちがはっきり分らなければならないのは、『天国に入ることは、そんなに容易にできることではない』ということです。私たちは、死者のためによく祈りますが、それはすでに天国に入っている人々のために捧げる祈りではありません。それより、煉獄で迷っているかもしれない、いろいろな靈魂のために祈るのです。

しかし、がっかりしないで下さい。一つの希望が書かれています。それは、第一朗読(コロサイ 3・12-17)の使徒パウロがその時代の共同体に宛てた手紙です。一つ一つ考えてみますと、福音とは違い、頑張れば私たちにも実践できるような話ばかりです。よく考えながら、もう一回読んでみましょう。

「(皆さん、) **あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。**」これくらいは私たちも努力すればできるでしょう。そして「**互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦しあいなさい。**」これも何とかできるでしょう。

「**主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにきなさい。**」たぶん使徒パウロも、今日読まれた福音をどのように理解すればよいのか、いろいろ悩んだのでしょう。そして、できるだけ自分達人間の弱さを認めながら、それでも人々が何とかできるような教えを伝えたいと思ったのでしょう。だから、手紙を通してこのようなことをおっしゃったのだと思います。

さあ皆様、もう一回振り返ってみましょう。私たちは神様に選ばれたことを意識しているのでしょうか。信じているのでしょうか。憐れみ深い心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けているのでしょうか。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても赦しあうように頑張っているのでしょうか。

ある意味では、今日の福音はとんでもない話に聞こえるかもしれません。これは無理だ、と私たちがすぐに言うてしまう内容かもしれません。しかし、今日使徒パウロをとおして話されたこの言葉は、

私たちがしようと思えばできることです。十分できるのにもかかわらず、私たちは今、逃げています。それを考えるとやはり私たちは罪人です、という告白が自然に出るのではないのでしょうか。

皆様、今日ご自宅に帰られたら、使徒パウロが話されたこの美しい言葉を自分の人生の鏡として、信仰の鏡として、もう一回吟味してみましょう。

さあ、違う話に入ります。今日は、「日本205福者殉教者」の祝日です。205人の殉教者、殉教された栄光、見せてくださった人生を祝いながら、私たちにもそのような勇氣と信仰をくださいという意味を込めてこのミサを捧げています。ミサが始まる前にも申しあげたのですが、この205人の殉教者以外にも信仰を守って亡くなった人々がたくさんいらっしゃると思います。その方々が、天国で私たちのこの日本の教会のために、絶え間なく祈っていると私は信じています。その殉教者の精神、殉教者の血を無駄にしないように私たちは頑張らなければならないと思います。

世界のどの教会でも、殉教の精神なしにカトリック教会を紹介することはできません。私たちもこの殉教の精神がどのくらい身についているのか、考えてみましょう。今の私たちにとって、殉教とは何でしょうか。簡単に考えてみると、「譲る」ことです。そして、いい意味での「我慢すること」。そして「祈ること」、「謙遜になること」です。これらのことは全て、殉教精神と殉教の靈性につながっていると思います。私たちはどのくらい殉教的な精神を持って信仰の生活をしているのか。先輩であり先祖であるその殉教者の方々の取次ぎをもとめているのか。その模範に従おうとしているのか。勇氣を与えてください、という祈りをしているのか。振り返ってみましょう。

ありがとうございました。